

F-0410

0076

亞細亞局

不機算五九號

大正十三年十月七日

在齊齊哈爾

領事代理 中野勇吉

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

在齊齊哈爾無線電信台擴張ニ関スル件

現在在齊齊哈爾無線電信台ハ舊露國領事館ガ平地ヨリ約ニ三十尺ノ高地ニ在ルヲ利用シテ同館構内ニ設置サレ居ルガ電柱ノ高サ百〇四呎通信範圍ハ滿洲里哈爾賓ヲ限度トスル小規模ノモニテ受信及發信機ハ英國制衣(會社名不明)ナルガモーターハ独ニシメニス會社製其他

在齊齊哈爾日本帝國領事館

ノ附屬機械ハ米國 General Electric Co. 製ナリ專ラ軍用ニ供セラレ一般市民ノ需要ニ應ビザリシカ今因ソノ大擴張ヲ行ヒ最新式機械ヲ独ニシメニス會社ヨリ購入シ(價格十四万五ト称ス)新ニ省城內南大營ニ工費約三萬元ヲ投シシメニス會社派遣独乙人技師監督ノ下ニ工事ヲ中ナリシガ既ニ電柱(鉄製約百五十尺余)ノ組立工事ヲ終リタルヲ以テ何レ一切ノ工事竣工ノ上ハ舊無線電信台ヲ同所ニ移シ通信ヲ開始スルコト、ナル豫定ナルガ新設無線通信距離ハ上海及日本迄モ及ビ將來ハ惟ニ軍用ニシテナラス一般ノ需要ニモ應ズル豫定ナル趣ニ有之候右及報告候 敬具

(本信寫送付先 北京 奉天 哈爾濱)

(大藏小森文七支店印行)

60 號
13.10.13

寫
送
信
者

(分類 F 2.2.2.2)

W

(二内者)

秘 寫

本紙ハ一深

陸同文
電報

十月二十八日 午後〇時十分發
午後五時〇分着

大正十三年十月二十九日

關東軍參謀長

次 長 宛

關電第四三六號

秦皇島高橋電ニ依レハ秦皇島ニ於ケル直軍司令部ニ無線電信ヲ建築
中ナリZC型ニシテ高サ十米突ナリ

奉天スミ

外 務 省

要再回

文書課長

文書課
長檢印

大正十三年拾月廿七日接受

寫 送 附

綴込名

一重之機密 第二〇〇號 大正十三年十月廿七日附

受信人

通信者
自田少通信局長

發信人 出濱 比呂長

大正十三年十月七日附 附 校者第〇〇號 在齊之哈爾濱電信台出張
大正十三年拾月廿七日發送濟 領事代理
ニ關スル件寫

淨書(外) 校正 原

手原電信台

(巨號用紙)

F-0410

0078

機密
79
14. 8. 15

通信者

亞細亞局

第一課乙

機密 三六號

送込名

支那無線

大正十四年二月二十七日

在安東

領事 西澤義徳

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

安東ニ支那無線電信機設之ニ関スル件

當地支那軍警側ノ消息ニ依レハ東三省無線
電信台開設以來各地ノ通信極メテ敏速ト
ナリ頗ル至便ナルヲ以テ張邊防督辦ハ更ニ
廣シ分台ヲ設置シ之カ利用ニ便ナラシムト
ノ計画中ニテ殊ニ當安東ハ滿洲東南ノ要

在安東日本領事館

衝ニ當リ通商貿易ノ大埠ナルカ故ニ從テ
又人事ノ往來通信ノ輻湊他地ニ比シ一層甚
シキモノアリ茲ニ於テ今回同無線電分台ヲ
開設スルニトニ決定シ近ク奉天本部工程局
ヨリ専門技師ヲ派遣シ合點ニ該工事を着手
セシムヘク同工事費豫算ハ大洋十餘(カ)元
余ナリ

右聞込ノ儘何等御参考迄及報告候處御
承知ノ通近來支那側ニ於テハ各地通信機
關ノ施設ニ對シ相當努力カレ居ル現状ニ鑑ミ
可能性アハモノトモ思考セラルルノミナラス右情
報ノ出所ハ是又相當信憑スルニ足ルモノニ付
尙引續キ内査中ニ有之候條此段申添候

(武藤納)

F-0410

0079

本信寫送件先
在文公使、奉天總領事

敬具

在安東日本領事館

F-0410

0000

文書課長

大正十四年三月九日發送

寫送附

綴込名

一

機密

大正十四年三月九日發送

大正十四年三月九日附

淨書 校正 淨原

受信人 白田山通信局長

發信人 木村局長

大正十四年二月二十七日附機密第三七號在安東西澤領事館來信

上女東支那無你電信機設立ニ關スル件寫

了
後

F-0410

0001

亞細亞局第一課乙

牛莊領事館情報

第十九回 大正十四年四月廿五日

〇一般情報

無線電高電收 祭

加多更
新野
飛電
漢ケルト
スミ
營口無線電台ハ容冬其ノ規模ヲ擴シタルカ時局
安定後事務稍閑散トナリシ爲一般商民ノ電報
收祭ヲ企画シ這般其ノ筋ノ許可ヲ得タルヲ以テ不
日之カ安貝行ニ着手スル由ナルカ收祭ハ當分元神
廟街支那電報局内ニ於テ取扱フト云フ

紡績分工場設立計畫

奉天紡紗廠ニ於テハ當地ニ分工場設置ノ計畫ア
ルヤニテ近ク調査員ヲ派シ安貝地調査ヲ爲サシムト云
フ

漢業局長交迭

奉天漢業高船保護局長ハ過般未屢次交迭ヲ
傳ヘラレタル處今回奉天軍務處々員白廣都同
局長ヲ命セラレ本月二十三日事務引續ノタメ未嘗
セリ



F-0410

0082

通任

乙 號用紙 (盛井納)

乃我ハ二四二

大正十四年五月二十日附在局子街芝崎副領事東信
公第一一五号 附屬 吉東日報社

延邊無線電信台築造確信

延邊ハ防備上重要ノ地ナリ軍政兩方局ハ夙ニ無線電信

台築造ノ議アリ未ダ成立セズサリシカ今回右ニ因リ

確信ヲ得タリ即チ哈爾濱會議ノ結果張智希ハ延吉ニ無

線電信台ヲ築造スルニ極メテ必要ナリト存シ特ニ劉混江ヲ

延吉無線電信台長トシ任命令ハ己ニ發表セシ步兵第九

外務省

乙 號用紙 (盛井納)

團第九連ノ團長ノ率ニ兵十餘名ヲ派シテ吉林ニ赴カシ

以テ沿邊ヲ保護セシメテト想フ劉台長ハ不日延吉ニ

到着スヘシト

外務省

F-0410

0003

408
1916.6.3

省

秘

陸軍省

陸同文

電報

參謀次長宛

朝鮮參謀第五十號

當軍間島連絡員ノ報告ニ依リハ局子街無線電信

局長少佐「ガクフクゲン」ハ野戰無線電信機ヲ携帶シ

六月一日延吉ニ到着シ四日市内ニ仮建築ヲ終リ通信ノ

試験中ナリト

第一課乙

支那

三

六月三日 午後五時六分發

朝鮮軍參謀長

F-0410

0084

亞細亞局

東京

大正十四年六月五日

在局子街

副領事 芝崎路可



又野子

第一課乙

寫
送任者

外務大臣男爵幣原喜重郎 殿

局子街無線電信建設ノ件

加美
支那無線機密郵電第二七號

局子街無線電信建設ノ旨豫テ聞込
居リシトコ此程機密人員共到着シ六月一日
以來當地旅館官店内ニ仮設シ目下試驗
中ナリ右ハ英國製「マルコニ」式野戰用無線



電信ニシテ結果良好ナルニ於テハ更ニ地所ヲ撰
定シテ本建築ニ取掛ル趣ナリ本件ハ曩ニ商設
シタル警備用長距離電話ニ二月二日附南島總領
事發函下宛機密郵電第二八號ニ不結果ノ
事代用スルモノナリト云フ

本局送付先

在支公使 向島 奉天 吉林各總領事
三分館主任 五合 署長
朝鮮總督 咸鏡北道知事

F-0410

0085

要再回

文書課長

公 信 案

文書課發送

大正十四年六月廿九日發送済

淨書

正校(原稿)

(淨書)

(甲號用紙)

主 管 亞細亞局長

了

任 主

亞細亞課長

課長

課長

課長

課長

課長

課長

課長

課長

課長

亞一機密

第八

八

號

大正

年

六月

二十九

日附

附屬

機密

通

記

通

通

通

受信

通信省電務局

吉野

外國電信課長

人名

谷

第一課長

人名

谷

第一課長

人名

吉野

外國電信課長

人名

谷

第一課長

人名

谷

第一課長

人名

谷

第一課長

人名

谷

第一課長

人名

谷

第一課長

件名

局子街無線電信建設ノ件

局子街無線電信建設ノ件

局子街無線電信建設ノ件

局子街無線電信建設ノ件

局子街無線電信建設ノ件

局子街無線電信建設ノ件

局子街無線電信建設ノ件

局子街無線電信建設ノ件

局子街無線電信建設ノ件

局子街無線電信建設ノ件

局子街無線電信建設ノ件

局子街無線電信建設ノ件

局子街無線電信建設ノ件

局子街無線電信建設ノ件

局子街無線電信建設ノ件

局子街無線電信建設ノ件

局子街無線電信建設ノ件

御參考ノ爲別紙送付ス

(大正十四年七月五日)

日附在局子街館來信

機密

第二七

號

寫

車

附屬書

寫

公 信 案

外 務 省

F-0410

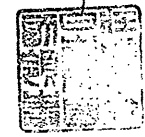
0085

寫
通
信
局

亞細亞局
大正十四年六月十三日

在局子街

副領事 芝崎路可



第一課乙

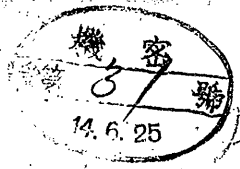
支那無線

外務大臣男爵幣原喜重郎 啟

局子街ニ無線電信建設ノ件

機密郵便第二九號

六月五日附拙信機密郵便第二七號ニ関シ當地ニ
仮設セル無線電信ハ吉林無線電臺延吉分臺ト
稱シ延吉鎮守使監督ノ下ニ吉林無線電第一分
隊ヨリ派遣サレタル少佐ヲ長トスル將校ニ下士以下
五名ニテ毎日午前八時―十時、及午後四時―六時



ノ間發受信ニ從事ス器械ハ大正六年壹萬貳千圓
ニテ購入以來北京、吉林等ニテ使用シタルモノナリ彼
長幾米ナルヤ不明ナルモ其ノ能力八十邦里ニ達シ
現ニ吉林ト通信シ哈爾濱並ニ我カ龍山ノ發信ヲ
傍受スト去フ目下ハ軍用専門ナルモ完成ノ上ハ官
私報ヲ取扱フ趣ナリ

本信寫送付先

在支公使

間島、奉天、吉林各總領事

三分館主任、五分署長

朝鮮總督、咸鏡北道知事

F-0410

0087

機密
受第164
14. 10. 5

（送附ノト）

外務大臣男爵 幣原喜重郎殿
ハルビン

情報部第三課

機密第一五三號

正十四年九月二十五日

亞細亞第一課

（己號用紙）

在 哈爾濱

總領事 天 羽 英 二

哈爾濱支那軍用無線電信局ト帝國通信社
無電復信方交渉ニ關スル件

本件ニ關シ客月廿四日附報一機密第卅五號貴信ヲ以テ御來示ノ趣敬承
布交渉ハ其後其儘ニナリ居ルカ當地支那無線電信局ノ無線情報受信狀
況ニ就キ用查ヲ遂ケタル處左ノ如シ

露人「グバレフ」(Gubarev)主任ノ下ニ四五名補助ス

在哈爾濱日本帝國總領事館

要再回

御參考ノ爲別紙送付ス

（大正十四年七月十三日附在子街館來電機密第二九號寫連附屬書寫）

公文書	文書課發送	大正十四年七月貳日	淨書	正校(原稿)	淨書
主 管	亞細亞局長	任 主	亞細亞第一課	日 附	附屬書
受 信	通信省電務局	發 信	名 達 綴	名 達 綴	名 達 綴
人 名	吉野外國電信課長	人 名	名 達 綴	名 達 綴	名 達 綴
件 名	子街ニ無線電信建設ノ件	件 名	子街ニ無線電信建設ノ件	件 名	子街ニ無線電信建設ノ件

文書課長
大正十四年七月壹日接受

（甲號用紙）

F-0410

0000

(分類)

總陸海參軍

對支文化 文書 會計 人事 情報 條約 通商 歐米

亞細亞

大臣 次官 信

電信課長

商

幣原外務大臣

芳澤公使

11396 東京 十九日 午後九時

件名	綴込名

第一〇五八号(十九日)
 本官署出張口宛電報才十六号(十九日)
 新聞情報ニ依シテ、橋本祥ヲ包頭ニ無線電台ヲ建
 設セントシテ、交通線ニ専門技師ノ派遣ヲ求メタル
 処、今般ハ無線電台通信所ノ技師ヲ派遣シ右電台
 ハ目下工事中ニシテ、三月以内ニ建設セントシ
 意氣込ナリトノ趣キナル処、右法意ノ上、何等
 同及ノ莫山田報アリタシ

哈爾濱市内ニ事務所ヲ設ク
 上海ヨリノ放送(主ニ軍艦ニ供給)及奉天ヨリノ放送ヲ受信ス天候
 ノ都合良キ時ハ「ポルドー」「ローマ」「莫斯科」「リガ」等ヨリ
 モ受信ス
 情報販賣料金ハ「ザリヤ」毎月百二十圓「ノーボスチ」ジーズニ
 七十五圓「ルースキ」ゴーロス」八十圓「コペイカ」三十圓「モル
 ワ」三十圓「エホー」百圓
 右御參考迄
 本信寫送附先
 在支那公使

在哈爾濱日本帝國總領事館

(已號用紙)

F-0410

0089



在張家口本日領事館

附屬書類添附

電報

了

第一課乙

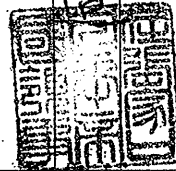
機密第六二號

送込名 支那

大正十四年十月二十一日

在張家口

領事 根津芳浩



外務大臣男爵幣原喜重郎殿

電報郵送ノ件

左記電報一通暗號ノ儘送付ス御査收ヲ請フ

左記

大正十四年十月二十一日日本官發在支公使宛第一七號

外務大臣へ轉電セリ

F-0410

0090

郵送電報
本有リタリ
ハハハハハ

11816
(暗) 31

張家口發
本有者着

大正十四年十二月一日 (郵送)

幣原外務大臣

根津領事

本官發在支公使宛電報第一七号一

貴電第一六号ニ関シ

馮ハ南苑、張家口、包頭、三ヶ所ニ無線電台建設ノ
希望有ル旨曾テ南居リタルガ御未示松室少佐ニ
亂シタルニ近頃其趣違高ヨリ電台買入契約成リタル
由南居タルモ的確ナラズ又電壓キ口、個數、
代價等モ不明ナレバ概テ見テ取調ブ可シトノ事ナリ
不取敢
外務大臣一暗送セリ

F-0410

0091

第一報電

支那年報

大正十四年十二月十三日

十二月十一日午後六時一〇分發
十二月十日午後五時五分發



陸同文
電報

參謀次長宛

支那公使館附武官

支第五五五号

駐露李代表發外交部宛十日著電

機密
支第五五五号
14.12.15

露國官報中國ノ近況ヲ論シテ曰ク今日ノ反奉運動ハ
虛偽的ノ武力主義ニ非ス實ニ帝國主義ニ抵抗スル
運動ナリ中國共產黨ハ軍閥ノ壓迫ヲ受ケルモ其内
面ハ尙鼓舞醞釀ノ裡ニ在リ
廣東政府ノ基礎日ニ益々鞏固トナルハ實ニ支那人漸ク
共產主義ヲ明クシテ結果ナリ云々ト

露國電信信託會社、庫倫電台、建設ヲ請負也

調印シ之ヲ起工スルカ為外蒙政府ト間ニ三百萬兩ノ
借款成立セリ因下調査中ナリ云々

各地を係

要約

兩無電臺元成
富錦の無電臺「祭天二
十二日發電也」東州無電臺ではさ
きより富錦に新に無電臺建設中
の竣工完成し、九月一日より
正式に放送開始する事となつた

民生新聞 大正八年八月二十三日

正

8155
時 101

北 京 外 務 部
本 省 署 大 正 十 五 年 八 月 十 三 日 三 〇 三 〇

都 京 外 務 部 日 本 領 事 館 代 理 人 使

知 地 外 務 部

第 五 四 一 號

十 四 日 張 家 口 發 布 官 官 記

第 五 七 號

第 一 四 號

國民軍倒、一、情報、依ハ貴地、ソソイ、ト、
大使館、ハ、先、ハ、最近、無線電信、機、ヲ、設置シ、
当地、無線局、ト、通信、ヲ、行、ヒ、ト、言、フ、事、也、
國民軍、大、官、連、一、家、族、ハ、此、日、東、部、西、方、

難、シ、此、一、週、間、以、内、ハ、於、テ、國民軍、勝、敗、ノ
決、定、セ、ル、如、ク、何、レ、モ、大、変、化、セ、ル、見、込、
有、ル、ハ、十、日、前、奉、天、軍、ノ、局、ハ、角、心、古、銅、也、ト、言、
フ、事、也、ハ、十、三、日、張、北、縣、逃、奔、シ、副、司、令、王、鍾、
淮、ハ、逃、亡、シ、大、敗、北、ヲ、受、ケ、リ、ト、言、フ、事、也、
ハ、張、北、縣、東、方、龍、門、山、迄、退、却、シ、同、様、ニ、テ、國民軍
ハ、兵、數、ノ、不、足、ヲ、感、シ、大、休、ム、於、テ、不、利、セ、ル、事、也、
右、ニ、南、口、方、面、ハ、堡、壘、數、ハ、十、餘、ニ、及、ビ、四、維、都、ノ、部、下
ハ、早、速、ニ、投、降、シ、ル、程、圖、ル、見、積、極、ニ、テ、不、利
ナ、リ、ト、言、フ、事、也、報、部、署、ハ、於、テ、此、事、中、會、議、ヲ、開、キ、
テ、一、ノ、場、合、ハ、各、地、ノ、局、長、等、ト、下、ル、決、議、ヲ、為、シ、
ス、ル、事、也、此、ノ、事、民、ハ、ト、ク、テ、給、シ、テ、採、査、ヲ、行、フ、事、也、

F-0410

0094

RENGO SERVICES

信 通 合 聯

(行發社合聯開新本日)



外信 第三十二號 昭和二十五年五月十七日

◎外蒙無電事竣工

北京十七日發聯合交通部側の消息に依りて外蒙政府は電氣通信の
次の抗議を無視して外蒙古千里電線建設の完成を信託し、竣
工せしめ作業開始の準備中であると。

級込
通信

電話一〇〇五三

手置り紙にて外國人家庭に遊子難し許す備う
ることノ事ニ信實更ニ十三日以來勤務ノ如ク
各地停車場ハ十二日以來車輪ノ集メ北高
於テ揚言シ乘止し埋石ノ状況、然テハ國志
備、觀測せし。

F-0410

0095

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

海軍次官
軍令部次長

第一遣外艦隊司令官

一六、一六、后

七一四

利根 着

「夕ナレ」九五

「南京政府外人保護」布告北伐ハ軍閥ヲ除キニ民
主義ヲ實行スルニアリテ各國ヲ敵トスルニ非ズ軍人ハ
此ノ意ヲ体シ爾後各國軍艦商船ニ対シテ擅ニ射撃
スルヲ得ズ外人ノ生命財産ハ北伐軍ノ到ル所意シ

用ヒテ保護シ以テ國交ヲ重ニス

杭州造幣廠裏練兵場ニ無線電台建築ノ計画アリ
總司令部交通處電台課長鄭方桁南京ヨリ十
三日上海着十六日杭州ニ赴ク豫定鄭ハ杭州無線電

分類F2.2.3.2)

抄本

台ヲ建設ノ經驗アリ杭州電台ハ三月後竣工スヘシト
三上海十五日楊虎ハ蔣ノ任命ニ依リ革命軍警備隊司
令ニ就任張荊要塞司令王柏齡蔣ノ代表トシテ式ニ
列ス

四工部局ハ最近革命軍人軍服ノ儘公共租界ニ入ル
コトヲ許可ス

五上海十六日孫文ノ受難五周年紀念會十七八、九
三日間北伐祝捷大會アリ

十六日

六新聞ニ日本ノ廣告ヲ掲載ス
七路上ノ日貨廣告ヲ剽奪ス
八婦女協會ヲシテ日本製日用品及
其ノ食品ヲ用ヒサラム

十六日

F-0410

0097

支那水陸軍事情報
一九二九年 十一月二十五日 第一遣外艦隊司令官長

海軍次官長
軍令部次官長

上海二十九日情報

一、蔣介石二十八日上海九日渡日、隨行者張群、

馬文庫、劉紀文以下十名

右三閣ノ渡米説及三ヶ月以内帰還説アリ

二、周鳳岐二十八日附上海三、浙江省政府委員及

軍事廳長 辭職ヲ通電ス

三、二十五日抗州民國日報ハ二千字ニ餘ル反對中央

特別委員會ノ通電ヲ發表セリト

四、革命軍ハ占領以來上海ニ短波無線電信機製

造廠ヲ設立シ上海、洛陽、廣東、寧波等ニ短波

ヲ裝備セリ最近南京軍事委員會内ニ短波

電台完成シ試験ノ結果勢力一〇〇ワットナルニ

洛陽、廣東、上海、寧波、廈門、ヒリフポイントウサ

島等トノ通信可能ナリト云フ

二十九日

F-0410

0098

寫

亞一機密左第二九九號

昭和二年五月十五日

外務省

陸軍省 陸軍省局長

亞細亞局長有由ハ

海軍省 海軍省局長

殿

通信省 通信省局長

御参考ノ爲別紙送付ス

(昭和二年五月一日附在着之哈爾濱之館來(往)機密第二九九號寫並附屬書寫)

各地を伝へる

(亦 梓 紙)

寫

本第二九九號

昭和二年十二月一日

在齊々哈爾領事 清水八百一

外務大臣男爵 田中義一殿

黒河ニ無線電臺建設セラレタル件

先遼來當地新聞紙ニ黒河ニ無線電臺建設セラレタリトノ記事アリタル處當地滿鐵公所ヨリ在黒河滿鐵通信員ニ其ノ真相ヲ問合セタルニ右通信員ヨリ左記ノ通り回答アリタル由ナリ

今回黒河ニ新設セラレタル無線電臺ハ軍用ニシテ名稱ハ東北無線電黒河分臺ナリ十月二十七日材料ヲ自動車ニテ運來シ直ニ設置シ既ニ同月三十日ニハ通信試験ヲナセル處良好ナリ

外務省

F-0410

0099

機械ハ我陸軍ニ用フル野戰用移動式無電ナリアンテナ鐵柱二本各
 高サ五十米突アンテナ一線ニシテ長サ八十米突ナリ電力ハ不明ナ
 ルモ從事員ノ話ニ依ルニ二十五アンテナナリ通信區域ハ齊々哈爾
 海拉爾、滿洲里、富錦及哈爾濱ノ各無電局ト連絡シ得從事員ハ統
 テ支那陸軍將校ナリ設置位置ハ南大街東部ナリ

(赤 梓 紙)

右報告ス

外 務 省

機密令第三三三號

昭和二年一月十一日

通信省古野外電電信課長
 海軍省軍務局前田大佐
 陸軍省軍務局中尾大尉

殿

御参考ノ爲別紙送付ス

寫

(昭和二年一月十九日附在杖の録)

館來(往)機密第二九一號寫並附屬書寫

記録件名支那之機密無線電機
 中山亞細亞局才一課長

F-0410

0100

普通第二九一號

昭和二年十二月十九日

在杭州 領事 清野長太郎

外務大臣男爵 田中義一殿

當地無線電信台ニ關スル件

南京軍事委員會交通處所管ノ下ニ本年七月ヨリ當地練兵場内ニ無線電信台建設中ノトコロ客月漸ク竣成シ同二十七日之カ落成式ヲ舉ケ本月一日ヨリ使用ヲ開始セリ側聞スルニ其建設費用ハ合計壹萬五千五百弗ヲ要シタル由ニテ右ハ勿論軍用ノ目的ヲ以テ設立セラレタルモノナルカ一面收入ヲ計ル意味ヨリ一般個人電報ノ發受ヲモ扱フコトトナリ別紙譯文ノ通り「國民政府軍事委員會交通處無線電信收發

(赤 梓 紙)

外 務 省

(赤 梓 紙)

規則」ヲ發表セラレタリ

因ニ右規則ニハ國外電報ヲモ取扱フカ如ク記載セルモ實際ニ於テハ支那國內特ニ南京政府管轄内ニノミニ限り居ル趣ナリ
右報告ス

本信寫送付先

在支公使、在上海、福州各總領事、在南京領事

外 務 省

F-0410

0101

國民政府軍事委員會交通處

無線電報收發規則

第一章 總則

第一條 國民政府軍事委員會交通處所管無線電信台發受ノ國內外電報ハ本規則ニ依リ辦理ス凡テ現行ノ萬國無線電信通例並交通部電報條例ニシテ本規則ニ抵觸セサル者ハ亦之ヲ適用スルコトヲ得

第二章 電報種類

第二條 電報ハ左ノ二種ニ分ツ

甲 國內電報

乙 國外電報

第三條 國內國外電報ノ區別左ノ如シ

(赤 梓 紙)

外 務 省

(赤 梓 紙)

一 同城電報即チ同一ノ城邑内各處相互往來ノ電報

二 同省電報即チ同一ノ省内各處相互往來ノ電報

三 隔省電報即チ甲省ト乙省相互往來ノ電報

四 國外電報即チ國外へ發スル電報

第四條 國內國外電報ヲ左ノ二種ニ分ツ

一 軍電

二 商電

第五條 軍電ハ軍事委員會又ハ軍事委員會ノ特別ノ許可ヲ受ケタル機關ノミ發電スルコトヲ得ルモノニシテ電信料ヲ徵セス

第六條 商電ハ中外人民共ニ之ヲ發スルコトヲ得

第三章 電報書式

外 務 省

F-0410

0102

(赤 梓 紙)

第七條 發電セントスルモノハ最寄ノ無線電信台ヨリ電報用紙ヲ受
取り又ハ隨意清潔ナル用紙ニ電文ヲ書入レ其地ノ電信台受附處ニ
交附スヘシ

第八條 發電ノ電報支那文ナルトキハ發電人ハ一般電信符號帖ニ依
リ逐字翻譯シ電報用紙又ハ自カラ準備セル普通用紙ニ明瞭ニ記載
スヘク若シ外國文ナレハ翻譯ヲ要セス

第四章 電文種類並語數計算

第九條 電報ハ支那文外國文ノ二種ニ分チ支那文ハ電信符號ニ依リ
譯出シ其ノ符號數字ノ書式ヲ左ノ如ク分ツ

甲、一二三四五六七八九十

乙、一 二 三 四 五 六 七 八 九 〇 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

外 務 省

(赤 梓 紙)

代フ

以上ノ符號數字ハ電報一通内ニ於テハ只一種ノ書式ヲ採用スルコ
ト外國文ハ羅馬字及アラビヤ數字ヲ併用スルコトトシ其文字數字
及記號ヲ左ノ如ク分ツ

丙、A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

戊、? ; : ; ; ! ; ? ; ; ; ; ; (一記號ヲ以テ一語ト見做ス)

第十條 電信語數計算ハ支那文ハ四字連絡符號一ヲ以テ一語トナシ
外國文平文ハ通常使用ノ單語ニ依リテ數ヘ暗號ハ十字ヲ以テ一語
ニ數ヘ五割増トシ電信台名稱ハ總テ二語ニ計算ス

第十一條 發電人使用ノ暗號ハ本處各電台ニ於テ必要ト認メタル時
ハ該暗號ノ檢閲ヲ要求スルコトヲ得

外 務 省

(赤 梓 紙)

第五章 電報料及翻譯料

第十二條 國內支那文外國文普通電報一語ノ價格ハ特別規定以外ノモノハ左ノ如シ

(一) 同域電報支那文平文四仙、支那文暗號及外國文ハ八仙 (二) 同省電報支那文平文八仙、支那文暗號及外國文十六仙 (三) 隔省電報支那文平文十六仙、支那文暗號及外國文三十二仙

第十三條 内外各商船ノ無線電信料ハ隨時接洽ノ上之ヲ規定ス

第十四條 新聞電報ハ本省隔省ニ拘ハラズ支那文一語ニ付三仙外國文一語ニ付六仙

第十五條 電報料不足ノ場合ニハ受取人ヨリ追徴スルコトヲ得、過分ノ時亦之ヲ返還スヘシ

外 務 省

(赤 梓 紙)

第十六條 支那文平文電報ニシテ受取人又ハ發電人ノ請求ニ依リ代理翻譯セル際ハ翻譯料ヲ徵收スルコトヲ得本省隔省又ハ外國行電報共一語ニ付五厘トス

第六章 返金査閱、抄寫

第十七條 左ノ各項ノ場合ニハ金額返金ヲ請求スルコトヲ得

一 電信台ノ錯誤ニ因リ電報ヲ受取人ニ交付シ能ハサル場合
二 受發遲滞ニ因リ電報ヲ留メ未タ發セサル内發電人ヨリ取消ヲ要求セル場合

三 電信台ノ錯誤ニ因リ電報到達力郵便ヨリ遅レタル場合

四 電信台カ發電ヲ誤レルニ因リ用ヲナササル場合

五 原電錯誤ノママ發電シ其錯誤カ電信台ニ屬セル場合 (但シ錯誤

外 務 省

F-0410

0104

カ電信台ニ屬セサル場合ハ返金セス

第十八條 電信台カ一電報中ニ於テ字句ノ遺漏ヲ爲シタル場合其料金二十仙以上ニ達セルモノハ發電人ヨリ其一部分ノ料金返還方ヲ請求スルコトヲ得、但シ電信台ニ於テ別ニ訂正電報ヲ發シタルモノハ此限りニ非ラス

第十九條 第十六條及第十七條ニ記載ノ返金請求ハ未送達、取消、遅延及誤送ノ場合ニノミ適用セラルルモノニシテ發電人カ以上ノ事情ニ因リ更ニ他ノ電報ヲ發シタル場合ハ其電報料ハ返還セス尙發電人カ以上ノ事情ニ因リ他種ノ損失ヲ蒙レル場合ト雖モ電信台ハ之ヲ賠償セス

第二十條 電信發送錯誤シ料金ヲ納メテ公電ニテ訂正シタル場合ニ

(赤
梓
紙)

外
務
省

(赤
梓
紙)

ハ其訂正公電料金ニ限り返還スヘキモ其原電ノ料金ハ之ヲ返還セス電報訂正ニ當リ料金ヲ納メテ公電ニテ之ヲ爲スコトナク發受人双方ノ間ニ於テ自カラ問合電報ヲ發シタル場合ハ其ノ電報料ハ返還セス

第二十一條 發電人又ハ受取人ハ電信台ニ對シ査閲又ハ原文抄寫ヲ請求スルコトヲ得但シ該請求ヲ正當ノ行爲ト認メサルトキハ之ヲ許可セス

第七章 附則

第二十二條 本規則ニ不備ノ點アル場合ハ本處ヨリ隨時修正公布スルコトヲ得

以上

外
務
省

F-0410

0105

著附言
原書
F 1. 10. 0. 1
支那ニ於ケル航空界
係機件ニ在リ

寫

(分類 F 2. 2. 2. 2)

機密第二一八號

昭和三年六月二十日

在厦門領事坂本龍起

外務大臣男爵田中義一殿

當地ニ飛行場、無線電信臺及砲臺等設置計畫ニ關スル

風評報告ノ件

近 日來當地新聞紙上ニ菲律賓在任華僑有力者ノ手ニテ當厦門ニ一大
飛行場建設計畫中ナリトノ記事屢々掲載セラレタルカ他面同會飛行
機ハ米國政府ノ好意ニ依リフキリツピン島ニ於テ全部購入ノ上當地
ニ輸送シ來ル筈ニシテ當地警備司令林國慶ハ飛行隊設置ヲ計畫シ居
リ當地米國領事ト飛行機買入方密議中ナル旨竝福建省政府ハ米國援助

記
支那ニ於ケル航空界
係機件ニ在リ

外務省

4. 12 ナ

(赤梓紙)

ノ下ニ福建全省主要都市ニ無線電信臺ヲ設置シ全省無線網完成計畫
進行中ナリト聞込アリ尙當港外金門島附近ニ砲台新設計畫中ナル由
報道セラレタル處何等御參考迄ニ右各種ノ報道竝當館諜報者聞込ヲ
左ニ摘記報告ス御査閱相成度

追テ當館諜報者カ右米國關係云々ニ就テ支那側有力者ヨリ探聞セ
ル處ハ餘リニ穿テ過キタル風評ニシテ信ヲ置キ難ク尙引續キ内查
中ノモツナリ

記

一、飛行場設置計畫

本月四日菲律賓濱島在任華僑ノ有力團體タル麻尼刺中國々民黨駐菲總
司揮部、在麻中華商會、各途商會、國民協會等主唱ノ下ニ「菲島

外務省

5. 8

F-0410

0105

華僑航空救國會」組織セラレ同會ハ執行委員トシテ同地華僑吳記
蘊、薛敏老、楊孔覺、虞永容、陳宗、戴愧生、李鐘業等ヲ舉ケ
一面秘書長陳國、ナルモノヲ當地ニ派シ目下各方面ト折衝中ナル
カ同會ニ對スル各華僑ノ援助ハ頗ル熱烈ニシテ吳記蘊、俞廷修、
陳榮芳、紙煙商會、中華布商會等ハ續々飛行機金品ノ寄附ヲ申込
ミ近ク當地厦門大學附近ニ一大飛行場及飛行學校設立セラルヘク
飛行機五台乃至十台ヲ購入シ飛行教官及技師ヲ聘シタル上學生約
五十名ヲ募集シ飛行場附近ニ簡易無線電台及飛行機修理工場ヲモ
設置スル計畫ナリト云フ尙廣東政府ハ先ツ飛行機二台ヲ同會ニ讓
渡スル事ニ決シタル由ナルカ右ノ外林國廣ハ厦門要塞警備ノ爲當
地ニ飛行機隊ヲ設置スル計畫ヲ有シ居ル趣ニテ當館譯報者ニ於テ

(赤神紙)

外務省

右飛行機購入方ニ關シ米國領事ト極秘裡ニ交渉中ニテ同領事ハ目下
米本國へ照會中ナリトノ聞込モアリ(會テ當地公安局長カ本官ニ對
シ福建海軍部ニ於テ七八千噸級軍艦一隻ヲ日本ヨリ入手シ度意嚮ア
ルモノノ如キ口吻ヲ洩ラシタルコトアリ右ハ談話者カ知違ヒノ公安
局長ナルト華府條約ノ關係上問題ニ爲ラヌモノトシテ取合ハス小官
ヨリ臺北駐在ノ中村海軍武官迄傳ヘ置キタルカ最近林國廣ノ配下タ
ル東京帝大出ノ林振成ナルモノ當地警備ノ軍艦大井艦長ニ機關銃其
ノ他ニ就テ種々口頭ニテ質問シ暗ニ入手方希望ヲ仄カシタルコトア
リ尙曩ニ報告ノ獨逸武器輸入等ノコトモアリ或ハ慢然米國領事ニ各
種ノ話合ヲ爲シ其ノ意嚮等ヲ探リタルモノニ非スヤトモ察セラレサ
ルニ非ス)

(赤神紙)

外務省

F-0410



福建全省無線電信、電話新設計畫

福建省政府カ米國援助ノ下ニ計畫中ナリト稱セラルル無線電信電話設置計畫ナルモノノ大要ハ左ノ通りナリ

(イ)福州及廈門ニ一キロワット無線電話機各一臺ヲ設置ス其ノ費用七萬元

(ロ)福州、廈門、延平、龍溪、晉江、田、ノ六ヶ處ニ各二百五十ワット短波無線電信機一臺ヲ設置ス其費用計四萬八千元

(ハ)以上六ヶ處ヲ除キ爾餘ノ全省五十七縣ニハ受信機一臺ヲ備ヘ付ク其ノ費用計二萬二千八百元

(ニ)以上各縣中電燈未設各縣ニハ發電機ヲ裝置ス其ノ時價約米金二百五十弗

(赤梓紙)

外務省

5.8

砲臺新設計畫

(イ)福州及廈門現存ノ短波無線電信機ハ比較的重要縣所在地ニ移ス

廈門當局ハ夙ニ管要塞ノ防備不完全ナルニ危懼ノ念ヲ抱キ居タル

處先般勃海艦隊(往電第五八號)ノ管港附近ニ出沒遊弋后愈々防備充實ノ必要ヲ悟リ砲臺修築ヲ企圖シ居ル由ナルカ本件報道ハ前

類ニハノ聞込ニ比シ相當根據アルモノノ如ク察セラル而シテ右計畫ナルモノハ

(イ)白石頭砲臺(廈門港口)ニ現存セル副砲七サント他ニ移シ
盤石山砲臺(廈門港口)ニ現存セル十四サント副砲二門ヲ之ニ

据付ケ
(ロ)盤石山砲臺ニハ先般獨逸ヨリ購入セル十一サント砲ヲ据付ケル

(赤梓紙)

外務省

5.8

F-0410

0108

コトトシ目下準備中ナリ

(ハ)金門島及青洲(厦門港外)ニ新砲臺ヲ建設シ獨逸ヨリ購入セル
十四サンチ砲ヲ据付クト云フ

本信寫送付先 海軍駐在武官、北平、上海、福州、汕頭
廣東、マニラ、臺灣總督、軍司令官

(添付紙ト)

外務省

5.8

F-0410

0109

亞細亞局

第一課乙申

昭和三年七月九日 接受

機密 第九六號

昭和三年六月二十五日

在宜昌

領事代理副領事浦川昌義



外務大臣男爵田中義一殿

鄂西主要地ニ無線電設備計画ノ件

鄂西地方ノ電線常ニ土匪ニ破壊サレ軍用高用
 共ニ不便甚シキニ鑑ミ鄂西清鄉司令部ニテ宜昌
 施南鶴峯興山當陽各地ニ無線電設備方ヲ立
 案シ宜昌ニハ少クモ重慶上海ニ連絡シ得ヘキ設備
 ヲ為サント計画シ之カ費用調達方商議ノ為メ近
 日当地電報局員ヲ漢口ニ派遣セシムル趣ナリ案込
 ノ後何等御参考迄右報告ス
 寫送付先在支公使漢口總領事

在宜昌日本帝國領事館

上海藤井印刷所納品

F-0410

0110

官印
海陸
濟

(分類 2.2.2.2)

福州

亞細亞局

機密第二五九號

昭和三年八月二日

在福州

總領事 西澤 義

外務大臣男爵 田 中 義 一 殿

福建全省ニ無線電話及短波無線
電信機設置計畫ニ關スル件

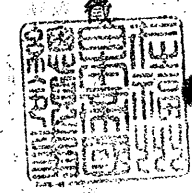
福建省政府ハ省内ニ無線電信電話機新設計畫アリトノ客月二十日附
在廈門領事發閣下宛機密第二一八號ニ關シ當館ニ於テ建設廳當局ニ

第一課

此録件名之ヲ於此照録並修要照付

昭和三年八月拾四日接受

別紙添附



就手續密調査セル結果大要別紙ノ通報告申進ス

本信寫送附先

在支公使、上海、マニラ、各總領事

南京、杭州、厦門、汕頭、各領事

臺灣總督、臺灣軍司令官、馬公司令官

BII

F-0410

福建全省ニ無線電話及短波無線電信機設置計畫

一、計畫ノ經過

福建省政府委員兼教育廳長黃 琬(米國留學生出身)ハ昨年七月現在ノ正式省政府成立ト同時ニ現職ニ就キタルモノナルカ一種ノ建設的理想家ニシテ就任以來前任者黃展雲ノ極端ナル平民教育論ノタメ一時閉鎖セラレタル中等學校及實業學校ヲ復活シ教育督學官制度ヲ視學官制度ニ改變シ或ハ高等小學校ノ教科目ニ新ニ日本語ヲ加フル計畫(本計畫ハ本年秋期ヨリ實施ノ豫定ナル趣ナリ)ヲ立ツル等本人ハ相當眞面目ナル人物ノ如シ本年三月二十一日開催ノ省政府委員會第六十六次會議ニ於テ黃琬ハ省内ニ於ケル文化開發ノ見地ヨリ全省縣城(六十三縣アリ)

BII

BII

其他重要地點ニ無線電話設置案ヲ提出シタルカ該案ノ實質ハ建設廳ノ所轄ニ屬スルヲ以テ當時省政府ハ不取扱^放之カ下調ヘ方建設廳ヘ訓令セリ依テ建設廳ニ於テハ在上海米商開洛公司(Kellogg Switchboard & Supply Company)ニ就キ機械ノ種類經費等具體的調査ヲ遂ケ甲、乙、丙ノ三案ヲ作成ノ上省政府ヘ提出セリ

二、計畫案ノ内容

右三案ノ經費ハ

甲案	一四〇、八〇〇元
乙案	七三、二〇〇
丙案	六二、二〇〇

ナルカ省政府ニ於テハ此中乙案ヲ採用スルコト、ナリ之カ實行方更メテ建設廳ヘ訓令セルカ該案ノ内容左ノ如シ

(一) 福州、廈門ニケ處ニ五百「ワット」無線電話器各一組ヲ設置ス此經費合計四萬元トス更ニ右ニケ處ニ二百五十「ワット」短波無線電信機各一組ヲ附設ス此經費合計一萬六千元トス

(二) 延平、晉江ニケ處ニ百「ワット」短波無線電信機各一組ヲ設置ス此經費合計一萬四千元トス

(三) 莆田ニハ現在福州市内東門外ニ設置シアル短波無線電信機(短波トアルモ客年在泊帝國軍艦ニ於テ士官ヲ派シ取調タル處ニ據レハ火花式「五キロ」ニシテ李厚基時代ノ建設ニ係ル趣ナルカ目下海軍總司令部行營ノ管理ニ屬シ交通部ヨリ獨立セル趣ニテ

BII

經費モ自辨セル爲メ私報ニ對シテハ一格^格二十五錢宛ヲ配達料金ノ外發受ノ執レヲ不問徴收セリ)ヲ移シ又龍溪ニハ現在廈門ニ在ル短波無線電信機ヲ移ス

(四) 福鼎、寧德、建甌、邵武、長汀、龍巖、詔安、永春ノ八縣ニハ受話器各一組ヲ設置ス此經費合計三千二百元トス

尙建設廳ハ本件計畫實行ノ經費銀七萬三千二百元ヲ向フニケ月以内ニ支出方本月十二日附公文ヲ以テ別紙寫ノ通財政廳ヘ請求セリ

BII

別紙寫

福建建設廳公函第 號

逕啟者案查前奉

省政府訓令開三月廿日省政府委員會第六十六次會議
黃委員琬提出建設無線電話以利交通一案經議決
交建設廳該復等因附抄發提議案并無線電話
建設計劃書一份業經敝廳擬具核議案分列甲
乙丙三種計劃及預算呈奉

省政府指令照乙種計劃會同軍事廳議復核辦
又經敝廳會同軍事廳呈復

省政府以乙種計劃係於福州廈門兩處各設無線電報
機電話機延平晉江莆田龍溪四處各設無線電報機福
鼎甯德建甌邵武長汀龍岩詔安永春八處各裝收音機
如此分配于軍事交通均稱便利安設地點亦復相宜至

於進行方面購機裝設各費應需國幣七萬三千二百元
應請令由財政廳從速如數設籌儘兩月內解交敝
廳核收以便派員採購并妥聘專門技師來閩分設裝
設在案茲於本月九日奉指令開呈悉候令行財政廳
查明核撥仰即知照等因奉此除函知軍事廳外相應函
請

貴廳長迅予查核如數設籌於兩月內撥交敝廳以便
採購裝設而利軍事交通至緝公謹此致
福建財政廳廳長陳

一七七二

電報ヲ發シタル趣ナリ
右何等御參考迄報告ス
本信寫送附先 天津

(赤
梓
紙)

外
務
省

3. 8.

各地
原
雜

友田外務次官

機密 第六九六號
昭和三年十月十五日

桑山進信次官殿

御參考ノ爲別紙送付ス

(昭和三年八月三日附在天津總領事館來) 機密 第四〇〇號 寫真時局書

F-0410

0117

機密第四八〇號

昭和三年八月三日

在天津
總領事 加藤外松

外務大臣男爵 田中義一殿

天津短波無線電臺通信開始ノ件

國民政府建設委員會ニ於テ一般公衆電報取扱ノ爲當地ニ短波無線電臺建設計畫アルコト七月二十一日附在支公使發閣下宛機密第八五三號ニ依リ承知シタルニ付キ右計畫ノ進行注意中ノ處右無線電臺ハ八月一日ヨリ一般公衆電報ノ取扱ヲ開始セル旨●●●●●●●●●●支那新聞ニ廣告アリタルニ付館員ヲ派シ右電臺ニ就キ取調ヘタルニ

(赤梓紙)ト

外務省

3.7

(赤梓紙)ト

(一)營業處(一般發信受付)ハ當地佛租界ニ設ケ處長屠迅先ノ下ニ事務員數名アリ別紙寫ノ如キ電信料金表竝發電用紙ヲ用意シ一般ノ需メニ應シツツアリ發電申込ヲ受付ケタルトキハ同所ヨリ自轉車ニテ直チニ電臺ニ送達ス

(二)電臺ハ特別第一區公署構内ニ設ケ同公署本廳舎裏ノ附屬屋舎ヲ機械室ニ充テ短波機械ハ上海國民政府ラデオ器具製作所製造ノ至極簡單ナル箱式ノモノ一個ヲ用ヒ動力ハ特別第一區發電所ノ電力ニ依リ居リ同事務員ノ語ル所ニ依レハ電力ハ二百五十「ワット」ニテ現今ノ波長ハ三十六乃至三十七メートルナリト「アンテナ」ハ六十呎ノ旗竿二本ヲ建テアリ

(三)現在通信シ得ル地方ハ●●●●●●●●●●廣州(廣東ノコト)漢口、上

外務省

3.7

F-0410

0118

海、雲南ノ四ヶ所ナルカ九月一日ヨリ北京、南京ノ兩局モ開通ス
ヘク行ク々々ハ南支一帶各地ニ局所設置セララルル管ナリト

(赤梓紙)ト

外務省

3.7

(赤梓紙)

本件無線電臺設置ニ關シ當地支那電報局員ノ當館員ニ語ル所ニ依レ
ハ當地ニハ既ニ交通部直轄ノ無線電信臺アリテ(英租界電話南局分
局構内ニ在リ)電報局ト共ニ交通部ノ管理ニ屬シ彼此連絡シ船舶局
宛等ノ一般公衆電報ヲ取扱ヒ居リタルニ今回突然電報局側ニ何等ノ
話合モナク國民政府建設委員會ノ直轄ノ下ニ本件無線電臺設立セラレ
一般公衆電報ヲ電報局ヨリモ低廉ナル料金(例ヘハ各省相互間ノ歐
文電報料金ハ陸線暗號平文ニ拘ラス一語三角二分ナルニ對シ無電ハ
暗號三角平文二角ニシテ同省内ノモノハ陸線一語一角六分ナルニ對
シ無電ハ暗號一角五分平文一角ナリ)ヲ以テ取扱ヲ開始セラレテハ
電報局側ノ營業ニ影響スル所モ少ナカテサルニ付電報局長ヨリ省政
府ヲ經テ中央ニ本件借置方ニ關シ照會ヲ發シタル様ノ次第ナルモ本

3.3

外務省

F-0410

0119

件無電普及計畫ハ張靜江カカヲ入レ居リ其下ニ多數米國留學生ノ青
 年ヲシテ事ニ衝テシメ居ル關係上交通部側トシテハ如何トモナシ難
 ク既ニ長江一帯ニ於テ建設委員會ト交通部トノ間ノ問題トナリタル
 コトアリタルモノナリ但目下ノ所無電臺設置地方モ數ヶ所ニ止マリ
 又創業ノ際ニテ通信ノ完全モ保シ難キコトト思ハルルヲ以テ當地ニ
 在リテハ一般商民ノ利用スルモノハ少ナカルヘシトノコトナリ
 右報告ス

(赤梓紙)

外務省

譯文

當無線臺ハ國民政府建設委員會ノ命ニ依リ天津ニ短波無線電臺ヲ設
 立シ商用電報ノ發受ヲ取扱フコトトナリタルカ手續敏速料金低廉ナ
 リ八月一日ヨリ廣州、漢口、雲南、上海、天津ノ五大都市ニ於テ通
 信ヲ開始^ス發電ハ營業所及電臺何レニテモ受付クルニ付最寄局所ニ
 付接 アリタシ料金左ノ如シ

支那文平文一字 一角 暗號 二角

歐文平文一語 二角 暗號 三角

至急報ハ何レモ三倍トス

「アドレッツス」ノ登録料ハ一ヶ年六元毎月ナレハ一元

(赤梓紙)

外務省

F-0410

0120

八月三十一日以降發受信共取扱ヒ居レル趣ナリ詳細不明ナルモ聞込
ノ儘右不取敢報告申進ス

本信寫送付先 在支公使、上海、漢口、南京、重慶

BII

亞細亞局

第一〇二乙

昭和三年十月八日 接受

機密第三四三号

昭和三年十月二十五日

空海軍部

極秘

19

外務大臣男爵 田 中 義 一 殿

在廈門
領事 坂 本 龍 起



支那側ノ短波無電臺設置ニ關スル件

當地ニハ從來福建海軍ノ長波無電臺アリシカ其ノ通達距離極メテ短カク
專ラ當地福州間ノ軍用通信ニ使用セラレ傍ラ民間ノ一般私電ヲモ取扱ヒ
福州臺灣又ハ臺灣海峡通過船舶等ト通信ヲ行ヒ居タルモ民間ニテ之カ利
用ヲナスモノ甚タ稀ナリシカ今般國民政府建設委員會ハ別ニ當地ニ短波

通商局

電信課

cf 122.22 (廈門)

在廈門日本帝國領事館

F-0410

0122

無電台ヲ設置シ南京、上海、廣東等主要都市トノ通信連絡ヲ計劃シ過般
來廈門市街鎮邦街第二一號家屋ニ之カ取付作業中ナリシ處此ノ程完成ヲ
見本月十四日試驗ノ結果南京、漢口、天津、上海、北平、廣東等トノ通
信成績頗ル良好ナリシ趣ニテ十九日ヨリ一般私電ノ取扱ヲ開始スル旨各
新聞紙上ニ廣告シ國權ノ外溢ヲ防止スル爲料金を低廉ニシタルヲ以テ支
那自國ノ電信ヲ利用スヘシト各方面ニ宣傳シ利用者吸收ニ努メ居ル處一
般支那人ハ未タ該無電ヲ利用スルモノ鮮少ナリト云フ
一方當地大北電報會社ニ於テハ本月ヨリ支那內地宛電報料金を改正シ支
那側無電台料金ト同額（支那文一語十仙支那文暗號一語二十仙歐文平文
暗號共一語二十仙新聞電報一語二仙）迄引下ケ之ト競争ヲ始メタリ
尙目下當館短波無電取付工事中ニモアリ本件支那側短波無電ノ開設ハ相

在廈門日本帝國領事館

當注意ヲ要スヘク我方無電設置費等ニハ今後益々慎重極秘ヲ要スル儀
ト思料セララル
右不取敢報告申進ス

本信寫送附先

在公使、上海、福州、漢口、天津、廣東各總領事、汕頭領事

在廈門日本帝國領事館

F-0410

0123

(分類F. 2. 2. 2.)

612.74

機密第三〇六號

昭和三年十一月十九日

在重慶

領事代理 後藤 祿 郎

外務大臣 野村 胡堂 義一 殿

萬縣ニ於テ無線電信台架設ニ関スル件

國民革命軍第一軍長楊森ハ本年六月萬縣ニ無線電信台ヲ架設シ名カ機械ニ却破損其他ノ事故ニテ未ダ通信ナシ得ヤリシ處十月初旬邦人技師

亞細亞局

第一課乙

昭和三年十月八日 接受

記録件名支那無線電信台架設件

公文書

御参考ノ爲別紙送付ス

(昭和三年十月二十五日附在慶商領事館來信) 機密第三〇六號寫並附屬書寫

件名	支那側ノ短波無線電ノ設置
受信	海軍艦政本部
人名	服部 大佐
發信	中山 謙 長
名 込 綴	

機密第三〇六號

昭和三年十月十九日

附屬書 通

18

別紙

9 123

F-0410

0124

本林藤定一（明年二月マデノ備聘契約ニカカレシ）オレノ
着任後之ヲ修程ヲ施シイ月下有ヨリ通信ヲ開始スルニ
至リシ趣アリ

本無線電信器機ハ上海ニ於テ邦人武田某等ノ斡旋
ニリ購入セラレタルモノニテ其件若ハ左ノ如シ

一、本機ハ短波ノ五〇ワットノ小電力ノ送信装置ニシテ、
送信波長ニ五メートル。通達距離ハ〇〇哩^{使用}内外呼

出符號「MYS」
受信波長ハ五メートルヨリ一〇メートル位ヲ隨意ナリ

一、本機ハ佛國、米國等ノ部品品ヲ以テ組立ララン

一、本機ハ定ニ幻燈器機ニテ到底完全ニ能率「ハ望
ム」大且ツ耐久カナン、尚ハ豫備品皆無ク考メ部ノ
破損ヲ来ハ時ハ通信不能ニ陥ルヘシ而テ豫備品ノ購入

ニ関シテイ等ニテハ急遽ニ應ルニ購送ナラ困ル事ニ在ル
カ如シ

一、該局ハ自下主トシテ重慶、成都、漢口等ハ通信ニ在
ル趣キナリ

本林藤定一ノ聞之ニ依リ何等ノ御参考ナラニ報告ス
不倍為送附ス

不使、上海、漢口、成都

F-0410

0125

亞細亞局

公報 一六二號

昭和三年十一月二十六日

在雲南

領事代理 中野勇吉



外務大臣 野田中義一殿

河口ニ無線電台設立ニ付スル件

滇越鐵道沿線ニテ支那及佛領印度支那ノ國境ニ
河口ニ於テ今地督兼楊仕中ノ稟請ニヨリ河口ニ短波
無線電台設置ノ件ハ政府ノ許可ヲ受ケ上海銀四千

八百元ヲ投シ上海ニハテ派シ無線機械一切ヲ購入申シ
由ニテ機械ノ到着ヲ俟テ組立ニ着手スル趣ナリ
右不取敢報共申進ス

CH

昭和三十二年三月七日 發受

（左）

F-0410

0126

第一課乙

工部局

並細亞局

昭和三年三月拾壹日接受

公第三九七號

昭和三年十一月二十九日

在汕頭

領事別府熊



外務大臣男爵 田中義一 殿

懸案

112.74

潮州(潮安)新設無線電信通信開始ノ件
東區善後公署ノ發表スル處ニ依レハ潮安單波無線電信局(第八路總指揮部所屬)ハ成都、武昌、南寧、等ニ新設セラレタル單波無線電信局ト共ニ最近相前後シテ完成ヲ見既ニ各局間ノ通信試驗モ終リ軍事通信ヲ開始スルニ至レル趣ナリ、尙右各局ノ略號左ノ如シ

BII

成都 XGI 武昌 XRI 南寧 XRS 潮安 XMS
右報告ス

本信寫送付先

在支代理公使

上海 廣東 漢口 廈門
福州 各總領事、領事
臺灣軍司令、馬港要港部

F-0410

0127

亞細亞局

第一課乙

昭和三年三月廿七日接受

待修第一八〇號

昭和三年十二月十日

在宜昌

領事代理副領事浦川昌義

外務大臣男爵田中義一殿

宜昌支那無線電報營業處設置ノ件

國民政府建設委員會無線電管理處ニ
當地營業路ノ建設ナル宜昌無線電報
營業處ハ本月六日營業ノ開始ナリ該無線電
報収發規則摘要相添ハ此收報告ス

專送件先在支公使、重慶、漢口領事官

在宜昌日本帝國領事館

612.74

F-0410

0128

中華民國建設委員會
無線電管理處

無線電報收發規則摘要

中華民國建設委員會無線電管理處無線電報收發規則摘要

第一章 總則

第一條 中華民國建設委員會無線電管理處所轄無線電台收發國內外電報均依據本規則辦理凡現行各國無線電報通例及交通部電報條例之與本規則不相抵觸者亦得適用

第二章 電報種類

第二條 電報分左列兩類

(甲)國內電報 (乙)國外電報

第三條 國內國外電報區別如左

- (一)同城電報即同一城邑內各處互相往來之電報
- (二)同省電報即同一省內各處互相往來之電報

(三)隔省電報即甲省與乙省互相往來之電報

(四)國外電報即發往國外之電報

第四條 國內國外電報分為六類

- (一)官電 (二)公電 (三)急電 (四)尋常商電 (五)納費公電 (六)新聞電

第五條 官電公電另訂條例辦理之

第六條 急電尋常商電納費公電無論中外人民均得發寄惟新聞電以報館為限

第三章 電報書法

第七條 凡欲寄電報可向就近無線電報營業處或無線電台取用電報紙或自備端正潔淨紙張將電文書就送交營業處或電台照發

第八條 凡發寄電報如係華文發報人將電稿照通用電碼本逐字編譯成碼用電報紙或自備尋常紙張寫清楚如係洋文則毋庸編譯

第四章 電報種類 字數計算

第九條 電報分華文洋文兩項華文尚電報碼本譯出字碼書法如左

(甲)一 二 三 四 五 六 七 八 九 〇 或以 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 代替之

以上字碼每電報一份祇准採用一種書法

洋文以羅馬字母或阿拉伯數目字拼成其字母及數目字記號分列如左

(甲) A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

(乙) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

第十條 電報字數計算華文普通照有線電碼以四個碼為一字華文密語至多以五個碼為限洋文明語以習用之字計數但以十五個字碼為限如超過十五字碼即作兩字計費密碼則以十個字碼為一字電台名稱統作一字計算

第十一條 發報人所用密碼本處各電台認為必要時得索該密碼本檢閱

第五章 報費 掛號費

第十二條 國內華洋文尋常電報每字價自除特別規定者外暫定如左

- (一)同城電報華文明語 銀元三分
- (二)同省電報華文明語 銀元五分

華文密語

銀元五分

洋文明語或密語

銀元五分

(二)同省電報華文明語

銀元一角

華文密語

銀元一角

(三)隔省電報華文明語

銀元二角

華文密語

銀元二角

洋文明語或密語

銀元二角

F-0410

0129

碼為限洋文明語以習用之字計數但以十五個字碼為限如起過十五字碼即作兩字計
費密碼則以十個字碼為一字電台名稱統作一字計費
第十一條 發報人所附密碼本處各電台認為必要時得索該密碼本檢閱

第五章 報費 譯費 掛號費

第十二條 國內華洋文尋常電報每字價目除特別規定者外暫定如左

- (一) 同省電報華文明語 銀元三分
- 華文密語 銀元五分

洋文明語或密語 銀元五分

(二) 同省電報華文明語 銀元五分

華文密語 銀元一角

洋文明語或密語 銀元一角

(三) 隔省電報華文明語 銀元二角

華文密語 銀元二角

洋文明語或密語 銀元二角

第十三條 內外各商輪無線電報費另訂條例規定之

第十四條 新聞電無論本省隔省華文每字收費二分洋文每字收費四分

第十五條 報費不足得向收報人追繳溢收時亦可發還之

第十六條 華文明語電報經收報人或發報人請求代為繕譯時得收取譯費無論本省隔
省或出洋電報每字收費銀元五厘

第十七條 凡欲掛號者須向所在地之無線電報營業處說明某字作為本人姓名住址

或商號名稱其掛號之字作一字計費

第十八條 每號准用一字若用號碼以四字為限洋文以十個字母為限此項掛號之字應
列在地名以前

第十九條 同一地方不得掛相同之號碼或字母

第二十條 洋文掛號之字不得與各國地名及城鎮村街道名稱相同

第二十一條 凡掛號一全年者應一次付足掛號費六元按月掛號者應按月付費一元

第六章 特種電報

第二十二條 緊急電報 發報人願將所發之報提前先發者即為緊急電報此項電報照
原價加倍收費(原價一角加為二角)以急或(urg)一字為標識寫在電文之首

第二十三條 校對電報 發報人如恐電文錯誤請求發報台轉知收報台將收到之原碼
逐字發回校對即為校對電報照尋常報費加收四分之一此項電報以(校)或(C)為標
識字樣

第二十四條 預付回報費電報 發報人欲收報人發寄回報願為預付報費者得於發報

時預付報費交於原發報台此項電報以(回)或(R)或(空)格書預付回報費字數為
標識字樣如欲付緊急回報費以(回急)或(Rurg)或(空)格書預付緊急回報費字數為
標識字樣每次預付之字數須註明否則不為代收

第二十五條 分送電報 發報人如欲將其電報分送與二人以上同在一埠或分居數埠
而歸一電台所轄者或寄於一人分送數處同在一埠或不在一埠而歸一電台所轄者祇
收電費一份其收報人姓名住址按字計算除原電外每加送一份由發報台按百字加收
抄費銀元二角(不及百字者以百字計)緊急電報抄費加倍收取此項電報以(分送)或
(分)或(空)格書份數為標識字樣此項電報發送時每份祇列收報人一人之姓名住
址餘均不錄欲全錄者須由發報人聲請之並於每一收報人姓名住址之前加註(全錄)
或(C)字樣按字計算此項電報務須由發報台向發報人詢問分送份數填註明白否則
不代分送

第七章 退費 查閱抄錄

第二十六條 凡遇左列各項情事得請退全費

(一) 凡因電台之錯誤致電報不能交到收報人者

(二) 因收發阻滯電報稽留未發經發報人要求註銷者

(三) 因電台之錯誤致電報達到較遲於郵遞者

(四) 凡電報因電台傳遞錯誤而致無用者

(五) 因原電錯誤而發之查閱電報費如查其錯誤屬於電台者(如錯誤不屬於電台者
不能退還)

第二十七條 發報人有因第二十六條所載情事而致他種損失者電台不為賠償

第二十八條 凡電報傳遞錯誤而用納費公電更正者祇得請退所納之公電費其原電費
不在退還之例更正電報不用納費公電由電台往復查詢而由收發執人自相以電報往
來查詢者其電費不在退還之例

第二十九條 發報人或收報人得分別向電台請求查閱或抄錄報底但非認為必要時不
能允許

第八章 附則

第三十條 本規則摘要有未盡善處得由本處隨時修改公布之

亞細亞局

第一課乙

昭和三年三月廿八日 授受

別紙添附

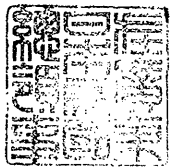
(正印無印)

機密公第五三八號

昭和三年十二月十五日

在 廣 東 總領事 矢 野

眞



外務大臣男爵 田 中 義 一 殿

廣東ニ於ケル無線電臺建設計劃ニ關スル件

本件ニ關シテハ拙電第一三三號ヲ以テ報告申進置キタル處廣東省政府建設廳ハ本年六月別紙ノ如キ國內通信用無線電臺新設ノ計劃ヲ立テ南京政府ノ許可ヲ取付ケントセルモ不成功ニ終レルカ省政府ハ右中央政府ノ不許可ニ拘ハラズ逐次本計劃ヲ遂行スルモノト看取セラレ關係中

612.74

外商等ハ其ノ材料賣込ニ奔走中ナリ尙廣東政府當局ハ否定シ居レルモ右ハ主トシテ軍事上ノ必要ニ基キ計劃セラレタルモノナリトノ噂專ナリ
御參考迄報告ス

本信寫送附先 在支公使 在上海 香港 漢口 福州各總領事

南京 汕頭各領事

BII

F-0410

0131

廣東省政府無線電臺計劃書

(甲) 一般計劃

(1) Voltage 120-130 vlt

(2) cycle Single

(3) transmitter Vacuum tube

(乙) 設立個所及其ノ規模(五十個所)

地名	電力
廣東	三〇〇「キロワット」
汕頭 海口	以上各八〇〇「ワット」
惠州 韶州	以上各五〇〇「ワット」
江門 肇慶 北海 高州 英德	以上各七五「ワット」
南陽	

(丙) (丁)

陸豐 嘉應 龍州 河源 石龍	
呂郎 始興 靈山 鶴山 三水 香山(中山)	
德慶 開平 廉州 陽州 雷州	
四會 鏡平 封川 南崗 翁源	以上各一〇「ワット」
連山 新豐 清遠 廣寧 石岐	以上各五「ワット」
東莞 潮州府 梅嶺 海豐	
仁化 連州 乳源 佛山 容奇	
完成期間	一箇年以内
入札額	
(1) Siemens	香港銀二三五〇〇〇〇
(2) Siemens	同 右二一五〇〇〇〇

5) *Bracklenam* 同 右 一〇八〇、〇〇〇
因ニ日本品ヲ使用セハ約九十萬弗ニテ足ルヘシト稱セラル

BII

F-0410

0133

秘

昭和3 一六七〇七 略

華府 本省 十二月十六日前着

亞

田中外務大臣

出淵大使

第三八九號

十一日「ラヂオ」社「デビス」來訪其ノ語ル處左ノ通

「フエデラル」社ハ往年ノ「フエデラル」契約ニ基ク電臺建設ノ材料ヲ一部用意シ居リタルカ該契約實施ニ至ラサル間ニ右材料全部置廢レトナリ其ノ爲資金供給者タル「ラ」社ハ元利回收ノ途ナキニ至リタルカ（本使ヨリ其ノ金額ヲ種々推問シタルニ對シ「デ」ハ百萬元以上ナリト答フ）將來支那ノ事態改善ノ上ハ兎モ角現狀ニテハ右損害整理方向トモ手ノ付ケ様ナシ尙「フ

電信寫

エデラル」契約ハ存續スル譯ナルモ今更其ノ實施方ヲ支那側ニ追ルモ詮ナカルヘシト思考ス

本年十一月南京政府トノ間ニ成立セル上海電臺建設材料賣込以外「ラヂオ」社ハ奉天側トモ略同様ノ契約ヲ有シ居リ其ノ他ニモ二、三材料賣込ヲ爲ス續リナリ尤モ支那各地ニ出來スヘキ是等電臺ト米國側電臺トノ間ニ一々通信時間ヲ協定スルコトハ事實上不可能ナルニ付將來多分上海電臺トノ間ニ該協定ヲ爲シ其ノ他ノ電臺トハ上海經由聯絡スルコトトノ協定ヲ爲シ其ノ他ノ電臺トハ上海經由聯絡スルコトトナルヘシ

紐育及英、佛ニ暗送セリ

支那政府

3

第一機密 第三四八號

昭和三年十一月廿四日

外務省 通 信
中山才一課長



海軍省 軍務局

中山才一課長殿

御参考ノ爲別紙送付ス

(昭和三年十一月廿三日附在漢口總領事館來(往)機密第八二一號寫單附屬書寫)

(F 2.2.2.2)

(赤梓紙)ト

公信第八一一號

昭和三年十一月二十三日

在漢口總領事 榮島主計

外務大臣男爵 田中義一殿

漢口無線電話設置ニ關スル件

第四集團軍總司令部交通處處長呂其彬ハ漢口無線電話設置計劃ニ關シ
總司令李宗仁及武漢政治分會ニ對シ武漢ハ軍政上ヨリスルモ將又北
京、天津、廣東、南京、上海等ノ權衡ヨリスルモ其ノ設置ノ必要ナ
ルヲ力説シ左ノ建設計劃ヲ提出セリ

一、電臺ノ計劃

電力ヲ一千一ワットニ波長ヲ三百五十乃至三百六十一メートル

外務省

F-0410

0135

トス

マ計費ノ概算

機器、工具、工事費、室内装置費、架器費等建設費六萬五千五百元 經常費二千元

其ノ他機械購入ノ手續、受話器ノ配置箇所等ノ各項有リ

右案ハ政治分會常會ニ於テ通過シ交通處處長呂其彬ヲシテ處理セシ

メ其ノ籌備委員會ヲ組織シ籌備委員ハ李宗仁之ヲ委任シ當分總司令

部經理處ヨリ諸經費ヲ支辨シ置クコトトナリタリ

尙本計劃ハ第一ニ軍用ヨリ着手シ漸次黨政用ニ進ミ若シ費用ニ餘裕

アラハ民用ニ供スルモノナリト云フ

右報告申進ス

(赤 粹 紙)ト

3.7

外 務 省

本信寫送付先

在支公使、天津、上海、廣東、南京

(赤 粹 紙)ト

3.7

外 務 省

F-0410

0136

3

夏細亞局

昭和四年 二月六日 朝鮮總督府警務局

支那國民政府ノ無電局設置計畫ノ件

(一月廿九日付朝鮮保秘第一三六號本件参照)

首題ノ件ニ関シ二月二日附京畿道知事ヨリ左ノ通り受報セリ

記

首題ニ関シ支那國民政府僑務局ヨリ當地駐在支那總領事宛通牒シ未リタル事實ノ有無ニ付調査シタルニ王統領事ノ洩シタル処左ノ如シ

本國政府ニ於テハ將來國內ノ通信網ヲ完備スル為南
京天津上海等ニ無電局ヲ設置スル計畫ナルカ之ト同
時ニ其ノ隣邦ニ在住スル同胞ノ利便ヲ計ルヘク之カ
為朝鮮在留國民カ從來本國トノ諸種ノ通信連絡ハ如

F. 2. 2. 2. 2
6/12.74

何ナル種類ノモノヲ最モ多ク利用シ居レルヤヲ調査
シ若シ前記實現後金山仁川等ニ受信局ヲ設置スルト
セハ在番國民ノ蒙ル利益ノ程度調査報告ヲ受命シタ
ルカ朝鮮在留民中ニハ豪商ナク取引上ニハ殆ント文
書ノ往復ニテ完全ニ用便ヲ達シ居ル有様ナルヲ以テ
特ニ無電受信局ノ設置ヲ要望スル必要ヲ認メス若シ
假令多少ノ利便ヲ受クルトスルモ國際上種々面倒ナ
ル手續ヲ要スル次第ナルヲ以テ中華總商會ノ意向ヲ
確メ大要以上ノ如キ報告ヲ為シタリ云々

事實ノ有無判然ナラサルモ聞込ノ伏
本書發送先 内閣拓殖局長 内務省警保局長 外務省亞細亞局長
外務省歐米局長 駐支公使 朝鮮軍司令官 左衛門司令官
樺太庁長官 指定庁府縣長官 各道知事 各派遣員

第一號

昭和四年正月拾日接受

要政

F-0410

電信寫

中外務大臣

第一四八號

南京

二月十九日後着

亞

岡本領事

昨十八日ノ中央常務會議ニ於ケル決議中重ナルモノ左ノ如シ

一、中央廣播無線電臺ヲシテ全國邊境ニ至ル迄通信セシムル爲現在

ノ電力五百「ワット」ヲ約四十萬元ヲ以テ十「キロワット」ニ

擴充シ（一箇月ノ經費ハ七千五百元）今後ハ國民政府及各省政

府等ヨリ發スル命令モ取扱ヒ得

云第三次全國代表大會ノ經費トシテ財政部ヨリ二十九萬九千九百

五十八元ヲ支出セシム委細公信

北京、上海、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州へ轉電

電信寫

(分發 2.2.2.2)

海軍部

子

昭和 二二二九九 暗

南京 本省

二月十九日後着

亞

田中外務大臣

岡本領事

第一四八號

昨十八日ノ中央常務會議ニ於ケル決議中重ナルモノ左ノ如シ

一、中央廣播無線電臺ヲシテ全國邊境ニ至ル迄通信セシムル爲現在

ノ電力五百「ワット」ヲ約四十萬元ヲ以テ十「キロワット」ニ

擴充シ（一箇月ノ經費ハ七千五百元）今後ハ國民政府及各省政

府等ヨリ發スル命令モ取扱ヒ得

二、第三次全國代表大會ノ經費トシテ財政部ヨリ二十九萬九千九百

五十八元ヲ支出セシム委細公信

北平、上海、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州へ轉電

北平

岡本領事 二月十九日

F-0410

0139

昭和四年二月五日

寫
普通電報 第一二二號

昭和四年二月五日

陸軍省電報局外口電信課長
陸軍省電報局 附設電信課長
海軍省電報局 附設電信課長
老練所 附設電信課長
海軍省電報局 附設電信課長
大藏省電報局 附設電信課長

外務省亞細亞局第一課長

殿

御參考ノ爲別紙送付ス

(昭和四年二月五日附在 燕湖 領事 館來電 普通電報 第一二二號 號寫單附屬書電)

(赤枠紙)

本往第二〇號

昭和四年二月五日

在燕湖 領事代理 柴崎白尾

外務大臣男爵 田中義一殿

無線電信局新設報告ノ件

中央政府建設委員會ニ於テハ豫テ各省ニ短波無線電信局新設方針
中ナリシ處今回當安徽省内ニハ蕪湖、安慶、六安、蚌埠ノ四箇所ニ
設置スル事トナリ其第一着手トシテ蕪湖電報局内ニ機械ヲ備エ付ケ
通信地點ヲ左ノ通定メ本月四日ヨリ事務取扱ヲ開始セリ

記

外務省

3.7

F-0410

0140

通信地點

上海、南京、天津、太原、寧夏、安慶、宜昌、漢口、萬縣、重慶
蘇南、開封、鄭州、蘭州、西安、平涼、洛陽、汕頭、廣州、其他
各國主要地ニ接続ス

右報告ス

外務省

(赤梓紙)ト

F-0410

0141

電信寫



田中外務大臣

第二〇三號

南京

三月七日前着

亞通

岡本領事

本六日附新聞報道ヲ綜合スレハ左ノ如シ

一 首都反日會ハ昨五日執行委員會ヲ開催シ同會委員ハ隨次各職員ヲ督勵同行シ日貨ノ秘密検査ニ從事スヘキ旨並ニ日貨密告懸賞ニ關スル新聞廣告ノ件ニ付検査部ヲシテ條例ヲ起草センメ次回會議ニ提案スヘキ旨ヲ決議シタリ

二 交通部ハ各地反日會ノ郵便小包検査方要求ニ對シテハ曩ニ上海郵務局ニ於テ反日會側ト決定セル紛擾防止ニ關スル検査辦法ニ依

リ處置方郵政總局ニ訓令スルト同時ニ中央黨部ニモ右ノ旨通達セラル趣ナリ(當地ニ於テハ郵務司ニ於テ反日會側ノ申出ヲ拒絶シタル次第ハ客年秋報告ノ通ナリ)

三 往電第一八五號報告ノ全國學生ノ越軌行動取締方ニ關シ政府ハ昨五日附ヲ以テ通令ヲ發シ教育行政各機關ヲシテ學生ノ秩序嚴守不穩行動取締ニ專任センメ何等軌外行動アルモノハ嚴重處罰スヘキ旨訓戒ヲ與ヘタリ

四 首都衛戍司令部特別黨部ハ同部第三次代表大會出席代表ニ當選シタル伍誠仁及谷正倫ノ二名ニ付選定方ヲ中央ニ上申シタリ
五 建設委員會ハ今般商電及新聞電報ノ輻輳緩和ノ目的ヲ以テ當市小豐富巷ニ無線電臺一處ヲ増設スルコトトシ一週間ヲ出テスシテ事務ヲ開始スル見込ナル趣ナリ

在支公使、上派へ轉電セリ

無線

亞細亞局

普通送第四三〇號

昭和四年六月二十六日

在南京

領事 岡本一策

外務大臣男爵 田中義一 殿

中央廣播無線電台擴充計劃ニ關スル件

六月二十四日中央常務會議ハ中央廣播無線電台擴充計劃ニ關シ宣傳ノ普及ヲ期スル爲五十一「キロワット」電力ヲ使用スルコトニ改メ並ニ機械經費ヲ六拾萬元ニ増額スルコトヲ決議セリ右報告ス

本信寫送付先 在支公使 上海 漢口 奉天 廣東 各總領事

在南京日本領事館

第一課乙

無線

昭和四年七月八日 接受

612.74

亞細亞局

本任第五三號

昭和四年三月二十六日

在蕪湖

領事代理 柴崎白尾



外務大臣男爵 田中義一 殿

無線電信局増設ニ關スル件

中央建設委員會ニ於テ無線電信局ヲ新設シタル件ニ關シテハ本年二月五日附本任第二〇號ヲ以テ既報致シ置キタル處其後之カ所管權限ニ關シ同委員會ト交通部トノ間ニ確執ヲ生シ既設ノ電報局内ニ於ケル委員會所屬ノ無線電局ハ今般交通部ニ移管スル事トナリ建設委員會ニ於テ

在蕪湖日本領事館

昭和四年四月拾日

柴崎白尾

612.74

新聞 昭和 年 月 日

濟南上海間
無電開始

支那無線

在蕪湖日本領事館

蕪湖亞細亞
八更ニ上海第二短波無電局ヨリ機械ヲ取寄テ交通部所屬無電局ニ對
抗シ競争的ニ此ノ程營業ヲ開始セリ
右報告ス
本信寫送付先
在支公使、上海、南京、

F-0410

0144

電報局

第一號乙

昭和四年五月拾參日接受

別紙添附

BII

機密第一七七號

昭和四年五月三日

在 濟南 總領事代理 西田 咩

外務大臣男爵 田 中 義 一 殿

電信

濟南電報局短波無線電信開始ニ關スル件

當地商埠電報局内ニ無線電台ヲ設置シ客月二十一日ヨリ一般通信ヲ
取扱フコト、ナリタルカ該大要別紙ノ通ナリ右報告ス

本信寫送付先

在支公使 在青島、奉天、天津、上海各總領事

在南京領事

6/22/24

寫

支那交通部濟南短波無線電台大要

一、開設 昭和四年四月二十一日

一、位置 濟南膠濟鐵路驛前山東省濟南商埠電報局内階上

一、送信機 中華三極銳電公司(上海)製一〇〇W
(五〇W真空管二個使用ス)

一、電源 直流電動機直結直流發電機

(イ) 直流電動機要目

Volts 82 A m R 7.2

(ロ) 直流發電機要目

R.P.M. 1750 H.P. 1

Volts 7000 A m R 0.3

波長 晝夜間 五八米

F-0410

0146



電信寫

昭和4 八二三六 暗 北平 本省 五月廿九日後着 亞

田中外務大臣 堀代理公使

第五七一號

陸軍武官側ノ得タル情報ニ依レハ從來市政府ニ設ケ居リタル馮玉祥派ノ無線電臺時局ノ爲撤去セラレ當該ニ居座ル馮派ハ之カニ後策ニ腐心中ノ處最近露國舊大使館跡ニ右ニ代ル電臺開設方準備中ナルカ故ニ支那側ハ之ヲ阻止スル爲一時同館ヲ閉鎖方近ク外交團ニ申出ントシ居ル趣ナリ右時節柄閣下ノ儘御參考迄
上海、南京、奉天、哈爾濱へ轉電セリ

無線電信

F-0410

0148

下 2.2.2.2)

懸案

612.74

公文書課長	文書課發送	昭和四年六月六日	漢送濟	淨書	正校(原稿)	淨書	(甲號用紙)
	主 任	3	三	昭和四年六月六日	日附	附屬書	通
受 信	人名	渡信者電務局	發 信	人名	右重田重高 課長		
件 名	濟南電報局短波七線電信	開始-聞スル件	名 込 綴	無線電信			
御參考ノ爲別紙送付ス							
↓ (昭和四年五月三日附在 濟南 修練事館來(往) 電機第一七七號寫並附屬書寫)							
公 信 案							外 務 省

公文書案

別紙

5 84

F-0410

0149



電信寫

F. 2. 2. 2.)

昭和4 八七〇一 暗 北平 本省 六月六日後着 亞

田中外務大臣 堀代理公使

第五九四號

六日秦墨晒ハ原田ニ對シ閩錫山ノ無電傍受ニ關シ左ノ通内話シタル趣ナリ

一時局ニ對シ閩錫山ハ事毎ニ蔣介石ノ機先ヲ制シ其ノ去就極メテ巧妙ナルハ閩カ密ニ當地西城報子街ニ無線電信所ヲ有シ電信暗號専門技師多數ヲ聘シ殆ト總テノ無電ヲ傍受シ居リ各派間ノ機密事項ヲ事前ニ承知シタル上適當ナル措置ニ出テ居レルカ爲ニシテ管テ楊宇震殺害ノ動機モ實ハ右無電傍受ニアリテ閩カ白崇禧、楊宇

巖間往復ノ密電十二通ヲ傍受シテ陰謀ヲ探知シ之ヲ蔣ニ密告ノ結果張ノ下手トナリタルモノニテ又蔣ト何成潘トノ間ニ往復ノ密電中何カ蔣ニ對シ閩ニ馮討伐ヲ命シ置キ其ノ結果馮ノ山西進出トナルヲ俟テ先ツ閩ヲ解決シ續テ入關ノ奉天軍ヲシテ馮ニ當ラシメントノ獻策ヲ爲シタルコト明ナリシ爲閩ハ遂ニ自衛上馮ト合作ノ餘儀ナキニ至リ且蔣ノ討伐命令ヲ避ケンカ爲下野ヲ表示シ蔣ノ機先ヲ制シタルモノニシテ何レモ右無電傍受ニ依ル機密探知ニ基ケルモノナルカ山西派ハ自身ノ機密事項ハ總テ電信ニ依ラス人ヲ派シツツアル状態ニテ同電信所ハ毎日閩ノ許ヘ「クーリエ」ヲ差シ立テ傍受電信ヲ送付シツツアリ云々

上海、南京、漢口、廣東、青島、濟南、天津、奉天、吉林、哈爾濱、福州、閩島、香港へ轉電セリ

無線

F-0410

0150

1. 5. 12

無線電

齊公情第六〇號

昭和四年六月四日

第一課乙

齊々哈爾公所長

無線

副社長 殿

寫發送先 東京支社長 鐵道部長 各公所長 哈事長
哈。齊。滿領事 澤田公館



漠河ニ無線電臺新設計劃(黑河報)

支那側ニ於テハ國防上ノ必要アリトテ黑龍江ノ解氷ヲ待チ漠河黑河ヨリ
上流一六六〇支里ニ軍用無線電臺ヲ新設スル計劃アリ

(A) 様式 黑河同様野戰移動用ノモノヲ使用ス

(B) 通信區域 黑河 滿洲里 海拉爾 齊々哈爾 富錦 索倫等

(C) 從來ノ電報線 齊々哈爾—黑河—漠河ノ電線アルモ長年手入セサル爲
ノ故障多ク不通勝ナリ

(D) 一般ニ開放 本電臺竣成ノ上ハ一般商民ニモ之カ利用ヲ許ス筈

F-0410

0151



亞細亞局

第一課乙

無線

齊公清第六八號

昭和四年六月十七日

齊々哈爾公所長

副社長 殿



東京支社長 鐵道部長 奉天公所長
寫發送先 哈爾市長 哈齊滿領事 澤田公館

黑龍江支岸ニ無線電信ヲ増設(里)ヲ為

黑河鐵守使署員ノ談ニ據レハ巴守鐵使提案ニ係ル國境防備上及地方商
民ノ通信ニ便セン爲メ黑河上流ノ金山鎮、漠河(六月四日附齊公情第
六〇號ニテ報告済)及下流ノ蘿北ニ軍用無線電信ヲ設置スルコトニ黑
龍江省副司令官署ノ認可ヲ得タリト云フ

F-0410

0152